

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	女 70代	便秘症 (なし)	7.5g 約3ヵ月間	間質性肺炎 投与開始日 便秘症にて本剤投与開始。 投与約3ヵ月目 労作時の呼吸困難が出現。 投与中止日 A病院を受診。胸部レントゲン及びCTにて間質性肺炎の像を認め、血液ガス上、低酸素血症を認めた (room airにて PaO ₂ 67.6torr)。この時点で本剤と酪酸菌製剤を中止、新たにクラリスロマイシンの内服 (400mg/日) を開始。 中止7日後 異常陰影、低酸素血症改善傾向 (room airにて PaO ₂ 78.5torr)。 中止13日後 精査のため、B病院に入院。 中止42日後 再増悪が認められないため退院。 血清学的に異型肺炎を示唆する所見は得られなかった。気管支肺胞洗浄液中の総細胞数の増加、リンパ球比率の増加、CD4/8比の低下を認めた。	

臨床検査値

	投与約3ヵ月後 (投与中止日)	中止7日後	中止14日後	中止140日後
白血球数 (/mm ³)	6400	7200	6300	5300
LDH (IU/L)	484	466		347
CRP (mg/dL)	1.4			
KL-6 (U/mL)	1804		1740	490

血液ガス

	投与約3ヵ月後 (投与中止日)	中止7日後	中止13日後	中止140日後
pH	7.493	7.470	7.450	7.443
PaO ₂ (torr)	67.6	78.5	88.6	97.6
PaCO ₂ (torr)	34.7	36.9	37.6	36.0

免疫血清検査

	投与約3ヵ月後 (投与中止日)
RAテスト	(-)
抗DNA抗体	(-)

DLST

	中止17日後
本剤	(-) (血中), (+) (BALF中)
酪酸菌製剤	(+) (血中), (+) (BALF中)

BALF所見

	中止17日後
総細胞数 (× 10 ⁵ / mL)	8.4
マクロファージ (%)	65.4
リンパ球 (%)	33.8
好中球 (%)	0.4
好酸球 (%)	0.3
CD4/8比	0.24

併用薬: 酪酸菌製剤, 酸化マグネシウム, センノシド, ジソピラミド, 塩酸ベラパミル, アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン, ユビデカレノン, クエン酸タンドスピロン